

一昨年の夏のある日、泡瀬干潟沖のニライカナイゴウナ、ホソウミヒルモなどの生息するホットスポット周辺をシュノーケリングで調査活動中、心躍る体験をしました。枝サンゴの群落を発見したのです。その場所は埋め立てられた沖のトチリ護岸と県総合運動公園オートキャンプ場を結んだ線上にありました。その面積、五百坪以上は優にあると思えました。その時の感動はちようと三十年ほど前、富着ビーチ沖のリーフでおなかすれすれに広がる鹿宮城のようなサンゴに感動したのと同じで



した。そこはサンゴとカラクサ藻場が不思議なコントラストをなしていました。

ところが、その後開かれた環境監視委員会の分厚い資料のサンゴ分布図中に私が遭遇した地点にサンゴの分布が記載されていません。私は傍聴席からそのことについて、よほど質問しようかと思っただけでした。

海藻やサンゴは、光合成で二酸化炭素を酸素に変えています。埋め立てにより海藻、サンゴをつぶすことは小泉純一郎首相が提唱する地球温暖化に関する

る京都議定書に反する行為です。

国は昨年暮れ、泡瀬干潟の埋め立てを再開しました。私はこの工事に異議を唱えたいと思います。この公共工事には疑問が多く、大事な税金の無駄遣いを県民で厳しくチェックする必要があります。

先日、やはりホソウミヒルモは新種だったことが報道されました。県包括外部監査人による県への提言でも泡瀬埋め立て事業について「事業内容の抜本的な変更や見直しも必要だ」と報告されました。それは県民の声を代表していると評価したいと思います。私たちは多くの県民の賛同を得て六百三十一人で県と沖縄市に対して監査請求と「自然の権利」訴訟の手続きに入りました。いま泡瀬干潟はSOS!

事業見直しは県民の声

泡瀬はSOS

沖縄は今シミー、浜下りの季節。十日(日)正午から午後五時まで「SEA泡瀬干潟人の輪行動実行委員会」主催により、ミナミコメツキガニの返り、全国の干潟の日に呼応した集会、人文字行動(ハラクライダーによる空中撮影)、コンサート、アース・モスク汁提供、クビレミドロ、ハボウキガイの観察などがあるため、多くの県民の参加をお願いします。

(泡瀬干潟を守る連絡会事務局
次長・原良朝敏)